



子どもの育ちを^{つむ}紡ぐ

- 架け橋期のカリキュラム -

教育長 津野 庄一郎

関川なないろ保育園の年長児（5歳児）から関川小学校1年生へのつながりを大切にする教育が本格的にスタートします。村の子どもにとって小学校への入学は、友達こそ変わりませんが義務教育の節目です。新しい先生や先輩たちとの出会い、バス通学や集団登校、広い教室での学校生活の始まり…。期待とともに不安も大きくなる時期です。

これまで園では「遊び」を通して、友達と関わる力、自分で考える力などさまざまな力を育ててきました。ところが、小学校に入ると「学習」が中心になるので、戸惑う子どもも少なくありません。そこで、村では保育園で培ってきた力を、そのまま小学校の学びに活かしていくことを大切にしたいと考えました。例えば、遊びの中での気づきや工夫を、学習の中の「考える力」へとつなげること、友達とのかかわりを、授業での学び合いへと広げていくことです。子どもたちが無理なく小学校生活に慣れていけるようにと保育園と小学校、教育委員会の関係者が協議を重ねて作ったのが「架け橋期のカリキュラム」<関川村版は村ホームページ参照（開発検討委員会委員長：関川小学校伊藤彰校長）>です。また、小学校に入学したこの時期は、子どもにとって何より大切なのは「安心感」です。ご家庭で「今日は学校どうだった？」と子どもに尋ねてみてください。「あのね…」と話す子どもの話に耳を傾け、「そうか」と共感したり、「頑張ったね」と認めたりしていくこと。その一つ一つが子どもの心の支えになります。

子どもたちは、急に変わるのではなく、幼児期からの育ちの上に、安心の中で一步ずつ伸びていきます。その大切な一步を保育園、学校、家庭、地域がともに手を携えて支えていければと思います。

<【写真】4月11日 樹齢400年を超える小見のサクラ（村指定：天然記念物）>